

北海道

NO 141

令和4年9月30日

碎石だより

(一社)日本碎石協会北海道地方本部

電話 011-241-4579 FAX 011-272-4685

『第15回 北海道碎石技術研究会』5年振りに開催



岡本本部長開会のご挨拶

令和4年9月14日(水)
会場 札幌東急REIホテル



◆第十五回◆「北海道砕石技術研究会」5年振開催!

9月14日、(一社)日本砕石協会

北海道地方本部主催、北海道砕石協
同組合連合会及び北海道国有林採

石協会協賛で第15回北海道砕石技
術研究会が開催されました。今回の

開催は、平成29年第14回開催以降、
令和元年に砕石フォーラムが札幌

で開催され、その後コロナウィルス
等の影響で今年5年振の開催とな

り、会員、賛助会員、行政官庁(道
庁、札幌市)など、道外からも十数

人の参加があり、総参加者数は13
3名と盛大なものになりました。

講演テーマは会員発表一つ目、

北海道砕石未来研究会から、

① 会長五十嵐幸次氏による

「砕石呼称に関する考察」

② 副会長松田憲佳氏による

「ネガティブエミッション技術

風化促進によるCO₂削減の未来」

二つ目、岡本興業株式会社から

松本繁夫氏と吉成理人氏による

「採石事業におけるドローンの活
用」が発表され、

賛助会員の発表は

「モバイル砕石プラント」を課題に

①株式会社栗本鐵工所、

③ 日工株式会社、

④ UBEマシナリー株式会社

の三社がそれぞれ発表をし、最後に
特別講演として

「採石跡地・土捨場における生物多
様性の高い樹林の再生」

—生態学的混播・混植法の適用と改
良—と題し

「近自然森づくり協会」理事長 岡

村俊邦氏より講演をいただきました

た。

翌日15日に開催された恒例の交

流ゴルフコンペにおいては、31名の

参加者が札幌南ゴルフクラブ駒丘

コースで日頃の腕前を披露し、今年

は岸本竜司氏が優勝されました。

◇岡本本部長開会挨拶◇

日本砕石協会北海道地方本部 第

15回「北海道砕石技術研究会」を、
北海道砕石協同組合連合会並びに



北海道国有
林採石協会
の協賛を得
て開催する
に当たり、
主催者を代
表して一言

ご挨拶申し上げます。

「本日は第15回北海道砕石技術研

究会に多くの会員・賛助会員のご出

席を頂き、また業務多忙の中、道庁

や札幌市の方がたもご出席いた

き誠にありがとうございます。今回

は遠く四国、東海、東北からもご参

加下さりありがとうございます。

発表は4つの課題があります。それ

ぞれ仕事の中で実務から得たもの
を、いろいろな研究をし、現状にあ

った発表となっておりますので、皆
様の業務のお役に立てればと思っ

ております。講演者の皆様大変ご苦
労さまです。本来は2年に一度の開

催ですが、コロナの影響で5年ぶり
の開催となりました。我々の業界北

海道は特に冬期間はほとんど休み
となります。冬が来る前の残り3か

月、無事故・無災害で仕事に従事し
ていただきたいと思います。

本日は少々長丁場になります。がよ
ろしくお願いいたします。終わりに

皆様の会社の発展と健康を祈念い
たしまして開会の挨拶といたしま

す。」とご挨拶されました。



○会員発表(一)

① 「碎石呼称に関する考察」

北海道碎石未来研究会

会長 五十嵐 幸次

(株)五十嵐組 代表取締役



始めに北海道碎石未来研究会の紹介で始まり、現在会員は16名今年碎石フォーラム2022に参加するなどの活動紹介し、アンケートの結果を発表しました。

「碎石業が地場産業であるが故に同じ名称であっても、地域で異なる商品のおそれがあるのではないかとの問題意識の下、アンケート調査を行い検証した。その結果、「ズリ」、「石粉・ダスト」の呼称ではその恐れがあることがわかった。

② 「ネガティブエミッション」

技術風化促進による

CO2削減の未来

副会長 松田 憲佳

(有)松田碎石 代表取締役



碎石業はCO2を大量に排出していると思われるが、やり方によってはCO2削減に寄与

できる可能性がある。ケイ酸塩を含む岩石(玄武岩等)を粉砕し、風化を人工的に促進させて、自然風化による吸収量(10億トン)の4倍(40億トン)のCO2を吸収できる可能性がある。

○会員発表(二)

「採石事業におけるドローンの活用」

岡本興業株式会社

松本 繁夫

北海道碎石事業部

吉成 理人



ドローンを活用することによって、各種許認可申請に必要とされる二次元の現況平面図の作成業務の省力化・効率化が図れる。特に碎石場は裸地が多い(植生による被覆地が少ない)ため、ドローンによる写真測量が活用できるので非常に適している。更に三次元データとしての活用も可能である。

○賛助会員発表

II モバイル碎石プラント II

『各社が取り扱っているモバイル碎石機について、その特徴を詳細に紹介』

① (株)栗本鐵工所 住吉工場

素形材エンジニアリング事業部

エンジニアリング部

中井 浩喜

佐々木 智



②

日工株式会社 事業本部
モバイルプラント 事業部営業部

中野 智之



③

UBEマシナリー(株)
産機事業本部 産機営業部
社会インフラ営業グループ
グループリーダー

藏成 和樹



○特別講演

「採石跡地・土捨場における
生物多様性の高い樹林の再生」

—生態学的混播・混植法の適用と改良—

「近自然森づくり協会」

理事長 岡村 俊邦

採石跡地も含め緑化が必要な土
地に対して、30年以上研究してきた
「生態学的混播・混植法」による生
物多様性の高い安定した樹木の造
成法を実例を示して紹介。

木本による緑化には長期の時間
を要するため、計画立案時に緑化の
目的、目標、手段等をしっかり検討
する必要がある。しかし、多くの場
合目先の短期的な目標やコストに
とられ、最終的な目的・目標から
ズレていることが多い。最終目的・
目標は、人間に豊かな生態系サービ
スを持続的に与えてくれる生物多
様性が高い安定した樹林である。こ

北海道砕石技術研究会懇親会



混植法」を考案し、改良し続けてい
る中で、今までの実例と成果につい
て講演をした。

のような
樹林を造
成するた
めの手法
として、
「生態学
的混播・

講演終了後、懇親会が盛大
に開催された。



北海道地方本部天方實
副本部長開宴挨拶。

東北地方本部
舞石本部長
「乾杯！」



懇親会の参加人数百八名
お疲れ様でした。



今年度の講習会の予定

採石のための掘削作業主任者技能講習
開催日：令和5年2月21日(火)~22日(水)
開催場所：かでの2・7(920会議室)
ご案内・募集は12月上旬頃開始予定
会員様は支部よりご案内・HP掲載

「編集後記」

本年度第二号の「北海道砕石
だより」を皆様にお届けいたし
ます。

第15回北海道砕石技術研究
会の内容となっております。

研究会には来賓、会員、賛助
会員等百三十名を超えてご参
加を頂き盛会に開催できまし
た。皆様のご協力に感謝いたし
ます。

10月に入り秋も深まりはじめ、
気温の変化が激しくなりますの
で、体調管理には十分ご注意く
ださい。

編集事務局一同